

臨床と教育の実践



Human Education



Advanced Medical Care



特集一兵庫医科大学病院

「大学病院」は、診断や治療といった医療行為の提供に加え、「教育」「研究」をその使命として掲げている。兵庫医科大学病院でも、高度な医療の提供が行われるかたわらで、明日の医療を担う医師を育てるための教育が行われている。



先進医療で地域を支える



安全で質の高い医療を



900床以上を有する兵庫県内最大級の基幹病院として、阪神地区全体から訪れる多くの患者さんを日々受け入れている兵庫医科大学病院。2013年には手術室、ICUなどを完備した急性医療総合センターを新設するなど、常に最先端の高度な医療を地域に提供している。

「当院は『災害拠点病院』に指定されているほか、地域の中核病院として様々な指定・認定を受けています。また、早い段

階から、救急現場に赴いて治療を行う『ブレホスピタルカー』を導入し、急患に対して一刻も早い治療を可能にするなど、基幹病院としての役割を果たすべく進化を続けています」と、難波病院長は話す。

鹿島建物管理概要
管理開始 2013年4月1日
管理内容 設備管理業務
管轄 関西支社 神戸出張所

建築概要
施設名称 兵庫医科大学病院
所在地 兵庫県西宮市武庫川町1-1
主要用途 医療施設
設計 西林建築設計 他
施工 鹿島建設 他
面積 敷地面積 88,420m²
延床面積 152,024m² (管理中の全棟合計)
構造 RC造 他

主要設備概要
電気設備 特別高圧 22kV
設備容量 12,000kVA
非常用発電機 1,500kVA × 1台
1,250kVA × 1台
1,000kVA × 1台
1,500kVA × 1台
空調設備 熱源
・冷温水発生器×11台
・貫流ボイラー×8台
・炉筒煙管ボイラー×1台
空調方式
・外調機、FFU、FCU
・空冷PAC、水冷PAC、水熱源HPPAC
衛生設備 受水槽、高架水槽、副受水槽、雑用水槽 他



Core Hospital in Hyogo

病気を治すのではなく患者さんを治す



「患者さんの立場になり、医療を提供することが何よりも大切だと考えます。当院の創設者が精神科医だったこともあり、伝統的に患者さんの心に寄り添う医療を継承していると感じます」(難波病院長)。また、患者さんやその家族との関係性も重視しているという。病気に立ち向かうために、医師による治療に加えて、患者さん本人の意思と家族のサポートが一つのサイクルとなっている、そんな関係を築

くことをめざしているという。医療人がもつべき資質を、難波病院長は「Scientist」と「Artist」と説明する。「Scientist」は、知識や技術を駆使する、文字通り科学者としての側面です。一方で、「Artist」は、豊かな感性で患者さんやその家族の思いを理解し、ともに病と闘える医師であることを意味します。医療に携わる者には、そのどちらも必要なのです」



良き医療人の育成

受け継がれていく 「知」と「技」と「心」

兵庫医科大学病院をはじめ、兵庫医科大学、兵庫医療大学、ささやま医療センターなどで構成される学校法人兵庫医科大学。この4つの部門はそれぞれ提携しながら、体系的な教育を行っている。兵庫医科大学病院は、学生や研修医が実際の医療に触れる場となっており、毎年約100名の研修医が、先輩医師の指導を受ける。効果的な研修のために「卒後臨床研修センター」が設けられている。

「兵庫医科大学に入学した学生は、入学一年目の早い時期から病院のエントランスに立ち、手始めに患者さんのアテンダントを経験します。受付を終えた患者さんに声をかけ診察室へ案内するほか、何か困ったことはないかヒアリングして、不安や緊張をやわらげます。こうした経験は、患者さんの気持ちを重んじることのできる医師になるために欠かせません」(難波病院長)。

特に学生や研修医たちにとって最大の経験となるのが、先輩医師の背中を見る事だという。たとえば、回診の際に患者さんと目線の高さを合わせ、手に触れながら話しかける場面では、少しの心遣いで患者さんの緊張がほぐれ、信頼につながる様子を目の当たりにする。「先輩医師たちのふるまいから、テキストだけでは身につかない医師としての姿勢や心構えを学び取っていくのです。医師に欠かせない、知・技・心。この三つをバランスよく兼ね備え、チーム医療の一員として活躍できる『良き医療人』の育成の場でありたいと考えています」と、難波病院長は話す。



Scientist & Artist

兵庫医科大学病院では、2年間の研修期間の内、研修先を自由に選択できる期間が最大で13ヶ月設けられていて、研修医各自が将来の志望にあわせた研修計画を自由に組み立てることができる。様々なプログラムを通じて先輩医師から丁寧な指導を受けながら、研修医たちは技術と心を磨いていく



写真上左 2013年に新設された急性医療総合センター。最新鋭の機器が並ぶ
写真上右 卒後臨床研修センター。研修医の学習環境も充実している
写真下 医療用酸素の管理も担当している

チームで取り組む医療の場の運営

常に万全の態勢で

難波様 この病院には、10棟以上の建物がありますが、それらの設備管理を鹿島建物さんにお願いしています。

香川様 古い棟は、竣工から40年が経過し、人間が歳をとるのと同じように、不具合が出やすい状態となっています。しかし、ここは病院ですので、設備にトラブルが発生して病院の機能が停止してしまうことはあってはなりません。鹿島建物さんは、日々的確に対応を行っていただいている、大変助かっています。

山本 病院管理において大切なのは、予測、予防と考えています。特に、この病院は増築で規模が拡大しており、必要な都度、設備機器などが更新されていることから、非常に複雑化しています。不具合がでてからの対応だと、連鎖的に大きなトラブルとなる恐れがありますから、設備の稼働状況や数値の傾向から、不具合の予兆を発見することに力を入れています。具体的には、一つひとつの機

器について導入の時期や故障の履歴等をまとめた「カルテ」を作成し、それとともに管理を実践しています。

脇村 日々の管理の現場では、万が一への備えも欠かせません。たとえば、激しいゲリラ豪雨に際しては、天井からの漏水が発生してしまうことがあります。そんな時にも、すばやく対処できるよう、漏水の起こりやすい箇所を図面にプロットし、把握しておくなど、準備をしています。病院の運営に迷惑をかけないように、これが鉄則です。

甲斐様 敷地内には鹿島建設で施工された棟が多く、鹿島グループで一貫して面倒を見ていただいています。建物の建設中の状況を知っている方々から、現在の建物の様子を見守っている方へ情報が水平展開され、そのうえで日々の業務をお任せできているというのは、とても心強く感じます。現在建設中の校舎も鹿島建設で施工中です。

何よりも患者さんのために

難波様 当院のスタッフのみならず、管理にあたる皆さんにも、患者さんに接する「心」の部分を大切にしていただけると嬉しいですね。患者さんたちに寄り添う気持ちを常にもち続けて欲しいと思います。

香川様 たとえば、設備の点検や調整などで病室に入られる際、患者さんの休養の妨げにならないように、病棟スタッフと相談しながら時間や順番を工夫していただいている。患者さんの立場になつていただけて、とてもありがとうございます。

脇村 常駐しているスタッフは、病室はプライベート空間であることを念頭において、業務にあたっています。また、自分たちも兵庫医科大学病院のスタッフの一員のつもりで、身だしなみには気をつけています。病院では清潔感が重要です。汗やよごれが気になる方もいらっしゃるでしょうから、こまめに取り替えられるよう、予備の作業着を常備しています。

甲斐様 病院のエンドユーザーはあくまで、病室にいる患者さんであり、外来で診察を受ける患者さんです。基本的なことですが、忘れずに業務にあたっていたいです。

山本 地域の皆さまが利用される病院の管理は、私たちにとっても大きな地域貢献であると捉えています。病気と闘う患者さんは、兵庫医科大学病院をとても頼りにし、大事に思っていらっしゃいます。その気持ちを受けとめ、私たちも病院長のおっしゃる「知・技・心」を念頭に、大切な病院施設の管理に取り組んでいきたいと思っています。

写真下中央
兵庫医科大学病院 病院長
難波 光義 様
写真下左
兵庫医科大学病院 病院事務部 部長
甲斐 義啓 様
写真下右
学校法人兵庫医科大学 総務部 次長
香川 清和 様
写真上左
鹿島建物総合管理株式会社 関西支社 支社長
山本 謙治
写真上右
鹿島建物総合管理株式会社 関西支社
兵庫医科大学管理事務所 所長
脇村 潤



建物の未来を見据えて

建物管理の仕事は、建物がスムーズに稼働してその機能を果たすための点検とメンテナンスが基本ですから、明確な終わりも息をぬける期間はありません。建物や設備が正常に稼働することが当たり前で、10年先、20年先も問題なく利用できる環境を維持するのが私たちの使命です。日々の繰り返しの確実さが、施設を利用するすべての方々の安心を支えていると自負しています。

